

# 第 39 回インターウニ・ゼミナール (ドイツ語ドイツ文化ゼミナール)

## 39. interuniversitäres Juniorenseminar für deutsche und japanische Kultur

### 参加者募集のお知らせ

日時： 2020 年 3 月 7 日 (土) ~ 11 日 (水)

場所： 河口湖 旅館「若富士」(<http://www.wakafuji.jp/>)  
 (富士急 河口湖駅から徒歩 20 分)

参加費： 37,000 円 (4 泊 5 日宿泊・食事代を含む)

募集人数： 50 名程度 (ドイツ語を学ぶ全国の学生・院生、  
 ドイツ語学習歴のある社会人)

講師 (予定)： 足立 信彦 (東京大)、相澤 啓一 (筑波大)、Ralph Degen (慶応義塾大)、井口 祐介 (東邦大学)、鎌倉 澄 (学習院大)、村元 麻衣 (名古屋大)、小野 二葉 (筑波大)、Matthias Pfeifer (静岡県立大)、高橋 優 (福島大) ほか

講演 (予定)： 近藤 孝弘 (早稲田大)

申込み締め切り： 2020 年 2 月 15 日 (土) (なお、それ以前でも応募者が定員を満たした段階でキャンセル待ちとなります。それ以後については、個別にお問い合わせください。なお、最新情報は HP (<http://www.interuni.jp/>) で確認してください。)

主催： インターウニ・ゼミナール実行委員会

ホームページ： <http://www.interuni.jp/>

お問い合わせ： <http://www.interuni.jp/kontakt>

共催： 筑波大学 (TEACH = 日独韓共同修士学位プログラム <http://trans.hass.tsukuba.ac.jp/teach/ja/>)

協力： Goethe-Institut Tokyo (ドイツ文化センター)、Deutscher Akademischer Austauschdienst (ドイツ学術交流会)

テーマ： 学校で政治を学ぶ？  
**Politische Bildung**

参加申込みは次のサイトから：

<http://www.interuni.jp/anmeldung>



### Das 39. Interuniseminar / Zeitplan 予定表

	3月7日 (Sa)	3月8日 (So)	3月9日 (Mo)	3月10日 (Di)	3月11日 (Mi)
8:00		Frühstück 朝食			
9:00		授業 2 Gruppenunterricht 9.00-12.15	授業 4 Gruppenunterricht 9.00-12.15	授業 5 Gruppenunterricht 9.00-12.15	各グループのプレゼン Gruppenpräsentation Evaluation
12.15	Anreise 到着	Mittagessen + Pause 昼食			
13:00		授業 3 Gruppenunterricht 14.00-17.15	Freier Nachmittag (13.00-16.30)	13.00-18.00 Studentischer Tag (Gruppenarbeit) プレゼン完成!	13.00 (予定) Abreise/Rückfahrt 現地解散
15.30	Einführung 導入 Gruppeneinteilung グループ分け				
18.00	Abendessen 夕食			パーティ準備	
19:00	授業 1 Gruppenunterricht 19.00-21.00	Vortrag: 講演 Prof. KONDO Takahiro mit anschließender Diskussion	19.00-20.30 Koreanischer Abend mit anschließender Diskussion 韓国 of タベ		
21:00	Gruppenbildung zur Präsentation				Änderungen Vorbehalten!
	Kneipe / Nachtruhe / 就寝 ?!				

## 学校で政治を学ぶ？ Politische Bildung

日本とドイツはよく似ていると言われます。1870年頃に（英仏などより遅れて）始まった近代化のプロセスとか、第二次世界大戦を同盟国として戦って敗れた歴史、さらには戦後の経済発展など、地理的な距離の大きさにもかかわらず、日独両国には多くの共通点が見出されます。そうした中で、日本とドイツとでも違う点のひとつは、「政治を学校でどう学ぶか」についての考え方ではないでしょうか。

「政治教育」のことをドイツ語で politische Bildung と言います。「教育」に Erziehung ではなく Bildung という語があてられることから、政治教育が単なる科目学習ではなく、人間形成の根幹として重視されていることが分かります。ナチスへの反省からスタートしたドイツでは、政治教育を進めるために、連邦政治教育センター（Bundeszentrale für politische Bildung、HPは <http://www.bpb.de/>）や各州の政治教育センターが設置されています。多くの学校がそれらのセンターと密接に連絡をとり、見学や研修プログラムを行っています。みなさんは、どういう「政治教育」を学校で受けてきたでしょうか？

日本ではどうやら、「小学校や中学校では政治についてあまり語らない」というのが暗黙の了解になってきているようです。だから、若者が政治について話題にするのはやばくてダサイ、と思われがちです。もしかしたら、政治教育をテーマに掲げた今年のインターウニは「なんだか危なさそうなゼミ」などと思われてしまったかもしれません。でも、このように日本の若者が政治を話題にしたがらない姿勢は、世界の中でもかなり特殊です。現代の日本社会のあり方にも、きっとその影響が出ているのではないのでしょうか。ちなみに2019年7月の参議院選挙で18歳と19歳の投票率は31%と低調だったとか。皆さんは投票行きましたか？

行った人も、行かなかった人も、今年のインターウニでは、まずはドイツ語をたくさん学びながら、どうして日本では学校であまり政治について学ばないのか、若者にとって政治とは何なのか、ドイツや韓国から参加する学生・教員たちと一緒に考え、学びたてのドイツ語で話をしてみましょう。

母語以外の言語でコミュニケーションができるようになると、今まで知らなかった人や社会と直接話せるようになり、世界がぐんと広がる喜びを知ることになります。ドイツ語を学び始めた皆さんには、そういう体験が待っています。ただインターウニでは、そのとき「どんなテーマについて話をするのか」という問いも、とても大切に考えています。買い物や旅行に使える日常会話もちろん大事ですが、それだけだったら最近進歩がめざましい自動翻訳でも十分です。みなさんにはぜひそれだけではなく、ドイツ語を学んで、わくわくするような知的な対話や人との出会いの楽しさをぜひ体験してもらえればと思います。

こうした目的をかかげるインターウニへの参加資格は「1年ドイツ語を学んでいること」、まずはそれで十分です。ドイツ語力に応じてクラス分けをしますので、その中でそれぞれの実力に見合う形で、でも少し背伸びしながら、ドイツ語を実際に聞いたり話したりして、活きたドイツ語を学んでいくことにしましょう。

2020年1月

- ◎ ホームページから申し込みをすると、登録アドレス宛に実行委員会から受付確認メールが送られますので、それに従って参加費を所定の口座に振り込むよう指示があります（詳細は受付確認メールでお知らせします）。
- ◎ 今回は河口湖にある温泉旅館を貸し切りで使用します。河口湖までは比較的交通の便がいいので、現地集合とします。（交通手段については、新宿からの電車・バス <http://www.wakafuji.jp/koutu.htm>、また関西方面からは新幹線三島駅乗り換えで河口湖行きバス <https://bus.fujikyuu.co.jp/highway/detail/id/29> など、各自でご検討ください。）
- ◎ 授業はドイツ語の語学力別に編成する10名程度の小グループで行うほか、講演や自由参加プログラムもあります。
- ◎ 申し込み後のキャンセルや部分参加申請は3月5日まで受け付ける予定です。それ以降の変更に伴う返金は、実費分を差し引いた返金額となります。（詳しいことは改めてお知らせします。）
- ◎ 以前のゼミナールの様子やテーマ等については、インターウニのホームページ <http://www.interuni.jp/> に詳しく掲載してありますので、ぜひご覧ください。
- ◎ ゼミに関するお問い合わせや、Web上での申し込みに問題が生じた場合などは、実行委員会までお問い合わせください。 <http://www.interuni.jp/kontakt>